

新基地建設反対名護共同センターニュース

私たちは勝つまで決してあきらめない！

軟弱地盤ある限り新基地は完成しない



琉球セメント棧橋に停泊中の運搬船へ監視活動に向かうカヌーチーム (1月27日)

沖縄防衛局はこの間、「コロナ禍も名護市長選も関係ない」とばかりに琉球セメントの鉱山から安和港だけで1日当たり輸送船3隻(ダンプカー約900台分)もの赤土を辺野古へ向けて海上輸送しています。ヘリ基地反対協海上チームは、市長選に全力をあげるため監視活動を休止していましたが、1月25日から活動を再開しました。月・土曜日は辺野古の浜から、火・木・金曜は安和港での活動です。1月27日は安和港でカヌー5艇、ゴムボート1隻で監視活動を行いました。1月31日は、海上チームの7人が抗議船に乗船、k8やk9護岸などからダンプカーで赤土を次々と辺野古側の埋め立て地へ運搬する現場を監視しました。

あるカヌーメンバーは「軟弱地盤がある限り工事は完成しません。私たちはあきらめる必要は全くありません」と話していました。



塩川港でパネルをかざす本部島ぐるみの原田さん

安和港の出口で牛歩戦術する県民

安和港の入り口で (いずれも1月27日)



キャンプ・シュワブゲート前で (1月26日)

ゲート前の監視も続く

「オール沖縄会議」は新型コロナウイルスの新たな感染拡大が続く中で抗議活動を休止しています。しかし、辺野古ゲート前には連日県民10数人がやむにやまれぬ思いで駆けつけ、感染症対策をとりつつ監視活動を続けています。



抗議船「不屈」からK9護岸付近で赤土の陸揚げ作業を監視する海上チームの人々 (1月31日)

第3ゲートから美謝川切替工事始まる。監視・抗議行動を！ 平和市民連絡会・北上田毅さんがブログで発信

今朝(1月28日・金)、辺野古の監視行動をしているNさんから、辺野古弾薬庫の第3ゲート内側に置かれていたトンブロックや資材等が全て片付けられたという連絡が入った。何時でも工事車両が入れる状態となったようだ。昨秋から美謝川切替工事が始まったが、今までは大浦湾の第9護岸近くの河口部での開削等の準備工事だけだった。それでも、第3ゲートはフェンスで閉鎖されて全く車両の出入りが無いのに、常時、複数の警備員が立つという凄まじい無駄遣いが行われていた。

右は現在、契約された美謝川切替工事の予定箇所図です。切替水路の本体工事は、今回の契約では、中央部の暗渠工と河口部の開水路工だけだが、これからの本格工事のためには大量の石材や生コン等の搬入が必要となる。米軍車両が出入りする第2ゲートを使うわけにはいかないので、第3ゲートが工事車両の進入口となるのだ。図でも分かるように、今後、国道の西側でも大規模な掘削・仮設道路造成工事が予定されている。そのために国道に面して仮設ゲート(門扉)が設置される。この工事もまもなく始まるだろう。この辺りは国道が大きくカーブして見通しが悪い。第3ゲートと向かい側の仮設ゲートから多数の工事車両が出入

りすれば、事故等が多発することが危惧される。いずれにしろ来週から第3ゲートから工事車両が出入りすると思われる。コロナ禍の中、大変だが、この場所でも監視・抗議行動を始めなければならない。(北上田さんの承認を得てブログから転載)

